

令和8年度外郭団体活動状況評価シート No.1

【令和8年3月31日時点】

団体名		公益財団法人吹田市国際交流協会						所管部室（課）名							
								都市魅力部文化スポーツ推進室							
所在地		〒565-0862 吹田市津雲台1丁目2番1号													
設立年月日		平成3年3月12日		代表者職・氏名			理事長 片岡 誠								
基本財産		200,000,000円		①本市出資金（本市の出資割合）			円（ %）								
				②本市出捐金（本市の出捐割合）			200,000,000円（100%）								
設立目的		吹田市と連携をはかりながら市民主体の国際交流活動を進めるとともに、地域に根ざした国際相互理解や国際化に資する事業を推進することにより、異なる文化や価値観を有する人が安心して暮らせる人権尊重を基調とした地域社会づくりに寄与することを目的とする。													
事業内容		1 市民主体の国際交流・国際協力に係る事業 2 国際化推進の人づくり支援に係る事業 3 在住外国人の支援に係る事業			（具体的な事業内容） (1)国際交流情報の収集及び発信、(2)市内大学との連携による留学生等と市民の交流、(3)国際交流ボランティア活動支援、(4)語学教室、(5)異文化理解・啓発事業、(6)国際理解事業、(7)国際交流団体等支援・連携事業、(8)日本語教室の開催、(9)コミュニティ通訳ボランティア同行コーディネート、(10)地域事業への在住外国人の参加促進、(11)外国にルーツをもつ子どもの支援、(12)子育て支援「こあらくらぶ」、(13)防災減災事業、(14)吹田市多文化共生ワンストップ相談センター										
			合計（市職員及び元市職員以外も含む。）								合計（元市職員以外も含む。）				
			うち市職員		うち元市職員						うち元市職員				
					定期報酬	都度報酬	報酬なし								
役員数 （人）	理事 （取締役）	常勤	0	0	0	0	0	職員数 （人）	常勤	6	0				
		非常勤	7	1	0	0	0		再任用※1 常時勤務	0	0				
	監事 （監査役）	常勤	0	0	0	0	0		再任用※1 短時間勤務	0	0				
		非常勤	2	0	0	0	0		非常勤	4	0				
65歳以上の役員数※2 （人）			3		0	0	0	臨時 雇用員	0						
評議員 （人）			5	0	0	0	0	65歳以上の職員数 ※2	0	0					
元市職員に対する報酬や給与水準が、本市制度の水準を上回る。（いずれかに○）								該当 ・ 非該当							
【該当する場合のみ記載】内容															
元市職員に対して退職金を支給している。（いずれかに○）								該当 ・ 非該当							
【該当する場合のみ記載】内容															

※1 再任用職員とは、団体の定年年齢以降における最初の3月31日を超えて雇用されている職員をいう。

※2 65歳に達した日以降における最初の3月31日を超えて雇用されている役員数又は職員数。

令和 8 年度外郭団体活動状況評価シート No. 2

【令和 7 年度決算】

団体名		公益財団法人吹田市国際交流協会			所管部室（課）名	
					都市魅力部文化スポーツ推進室	
財務状況（円）	損益計算書	総収入	51,177,829	貸借対照表	資産の部合計	194,947,899
		（うち市受入金）	42,994,900		負債の部合計	12,575,904
		（その他）	8,182,929		（うち有利子負債）	
		総費用	70,393,843		正味財産合計	182,371,995
		経常損益	-1,422,479		（うち一般正味財産）	165,530
		当期損益	-1,422,479			
市から団体への支出（円）				主な内容、算出根拠等		
	フロー	補助金	1,300,000	吹田市国際交流協会事業補助金		
		委託料	31,555,700	外国人等支援及び国際交流促進業務		
			8,081,700	日本語教室及び日本語学習支援業務		
			2,057,500	行政通訳同行業務		
		指定管理料				
		その他				
		計	42,994,900			
	ストック	貸付金残高				
		債務保証残高				
		損失補償残高				
		出資金（出捐金）	200,000,000	吹田市出捐金 ※令和 7 年度末の評価額は182,206,465円		
		その他				
		計	200,000,000			

令和8年度外郭団体活動状況評価シート No.3

【評価対象期間: 令和7年4月1日から令和8年3月31日まで】

団体名	公益財団法人吹田市国際交流協会	所管部室(課)名
		都市魅力部文化スポーツ推進室

1 団体による評価

(1) 運営に関する評価

◎→できている ○→概ねできている
△→一部できている ×→できていない

指針の項目	評価項目	評価	評価の理由
組織及び人事管理	組織や、事務処理に関する規程等を適切に整備している。	○	・令和7年度に職員就業規則の一部を改定し、服務規律、情報管理、ハラスメント対応等を明確化するとともに、公益通報制度規程を制定した。 ・理事長、副理事長、事務局長及び事務局長次長による運営会議を毎月開催し、予算執行、人事及び事業運営上の課題を共有し、迅速に対応した。 ・業務ごとに主担当・副担当等を配置し、対応漏れの防止、情報共有及び知見の蓄積を図った。 ・理事、評議員及び監事は無報酬としている。職員採用は原則として公募により行い、公正性・透明性を確保している。職員給与は関係規程に基づき支給している。 ・内部研修に加え、外部研修にも職員を派遣した。内部研修では、協会の理念、公的責任、専門性、業務品質及び利用者本位等を多面的に振り返る研修を導入し、職員の自己理解と相互理解を促した。
	団体の事業規模に応じた簡素で効率的な執行体制としている。	◎	
	コンプライアンス関係規程・必要な体制の整備、ハラスメントを防止するための措置を講じるなど、組織の体制強化に取り組んでいる。	◎	
	団体の事業規模や経営状況に応じた役員数及び職員数としている。	◎	
	採用における公正性・透明性を確保している。	◎	
	団体の経営状況に応じた役員報酬や職員給与としている。	◎	
	職員研修の充実に努めている。	◎	
事業運営	事業の必要性や意義を見直しつつ、効果的、効率的な事業運営を行っている。	◎	・仕様書を踏まえ、事業実態を把握・検証し、効果的かつ効率的な運営となるよう、実施方法や人員配置等を調整した。また、必要に応じて所管室と連携した。 ・利用者アンケート等で把握した要望・課題を各事業の改善に反映し、市民ニーズに沿った運営を行った。
	事業を継続的に点検し、市民ニーズに沿ったものとしている。	◎	
財務管理	中・長期的な経営計画を策定している。	○	・令和2年度策定の中期アクションプランについては、事業環境、組織体制及び財務状況の変化を踏まえ、見直しの要否を検討している。 ・語学教室事業収益は、前年度から約240万円増加し、自主財源の柱となっている。 ・市場金利の動向を踏まえ、複数の証券会社に提案を求め、比較検討した上で保有債券を入れ替え、安全性を確保しつつ運用収益の向上を図った。 ・会計・人事労務の電子化と業務効率化を進めるとともに、外部専門家を活用した監査体制を整備した。
	自主財源の確保に努めている。	◎	
	各種経費を可能な限り抑制している。	◎	
	最も確実かつ有利な方法で財産の管理運用を行っている。	○	
	外部の専門家による監査を活用するなど監査体制の強化に努めている。	◎	
情報公開	団体の経営状況、事業計画を公開している。	◎	・事業計画、収支予算、事業報告、決算書類及び役員名簿等をホームページで公開している。 ・機関誌、SNS及びメール配信等を活用し、多言語ややさしい日本語による情報提供に努めている。 ・個人情報保護規程に基づき、個人情報を適正に管理している。
	団体の役員名簿、会議録等を公開している。	○	
	ホームページをはじめとする多様な手段で情報提供を行っている。	◎	
	個人情報保護に関する措置を適正に講じている。	◎	

令和8年度外郭団体活動状況評価シート No.4

【評価対象期間: 令和7年4月1日から令和8年3月31日まで】

団体名	公益財団法人吹田市国際交流協会	所管部室(課)名
		都市魅力部文化スポーツ推進室

(2) 事業に関する評価

ア 指標による評価

事業名	活動指標	令和7年度目標	令和7年度実績	(参考) 令和6年度実績
	成果指標			
市民主体の国際交流・国際協力	ホームページへの多言語情報掲載件数	85回 (昨年度並み)	93回	87回
	ボランティアによる日本語学習支援参加者数	5,100人 (昨年度並み)	6,428人	5,136人
国際化推進の人づくり事業	異文化理解・啓発事業数(多文化まつり、多文化共生講座、国際理解事業)	12回 (毎月1回程度)	8回	13回
	日本語教室受講者数	2,100人 (昨年度並み)	2,326人	2,122人
在住外国人の支援	吹田市多文化共生ワンストップ相談センター相談件数	1,000件 (昨年度比125%程度)	1,082件	849件
	コミュニティ通訳ボランティア同行事業同行件数	160件 (昨年度並み)	239件	157件

イ 指標で示すのが困難な場合

事業名	活動内容	成果内容
①語学教室 ②多文化まつり ③防災減災事業 ④アンケート調査	① 英語、中国語、韓国・朝鮮語、ベトナム語、スペイン語の通年クラスに加え、多様な言語や文化を学べる短期クラスを充実させた。 ② 例年の文化紹介・展示、伝統工芸品の製作体験等に加え、千里ニュータウンプラザ2階エントランスホールにモンゴルゲル(移動式住居)を設営し、映画「マイスマールランド」を上映した。学習者、ボランティア、語学受講者にとどまらず、幅広い地域住民の来場を促し、多文化共生への関心を高める機会を提供した。 ③ 市と連携した防災情報の多言語発信、合同防災訓練の周知に加え、防災月間を設定し、防災・減災に関する資料展示や在日大使館職員を交えた防災座談会を開催した。また、市の地域防災リーダー育成講習に職員が参加するなど、次年度以降の事業展開につながる取組を進めた。 ④ 大阪府からの要請に基づく地域日本語教育の成果調査と、吹田市による生活課題、情報アクセス、相談先、防災、行政窓口、支援サービスの利用・満足度、地域交流等に関するアンケートを多言語で実施した。	① 継続受講者の家族・友人の受講が増加したほか、クレジットカード決済の導入や体験型クラスの拡充を進め、新規受講者も増加した。 ② 体験型企画を増やし、延べ約1,400人が参加した。 ③ 防災月間の継続により、利用者が防災情報に触れる機会を拡充した。洪水ハザードマップ等の展示や座談会を通じて、防災への関心を高めた。 ④ 地域日本語教育の成果及び学習後の社会生活上の変化を把握するとともに、吹田市のアンケートでは、外国人住民等の生活課題、情報アクセス、支援サービスの利用状況・満足度等の基礎データを収集できた。これらの結果は、吹田市多文化共生ワンストップ相談センターによる出張相談(アウトリーチ型相談)の試行にも活用している。

(3) 今後の取組方針 ※(1)において◎以外とした事項、課題となっている事項について重点的に記載

・複数担当制を基盤に、ペーパーレス化、キャッシュレス化及び押印を要しない事務の整理を進め、業務手順と承認経路を標準化・可視化する。業務マニュアル、手順書及び関係規程を整備し、業務品質と継続性を高める。 ・アンケート結果、相談記録及び事業実績を分析し、事業環境、組織体制及び財務状況を整理する。その結果を踏まえ、中期アクションプランの見直しの要否を判断し、見直す場合は重点課題、成果指標、人員・財源及び工程を明示する。 ・個別面談では、多面評価の結果を踏まえて職員ごとの強みと課題を整理し、具体的な行動目標を設定する。一定期間後に進捗を確認し、能力開発と組織改善につなげる。 ・導入済みのシステムを活用し、収支管理の必要性和把握可能性を踏まえ、事業別収支及び単位コストの把握を段階的に進める。人件費等は既存データに基づき合理的な範囲で配賦し、管理精度と事務負担の均衡を図る。 ・運営会議を経営管理の中核に位置付け、事業・予算の進捗、人員配置、リスク及び課題を一体的に管理する。課題ごとに責任者と期限を定め、対応状況を理事会等に報告する。 ・目標未達となった事業は、未達要因と需要を検証し、代替手段又は現実的な目標水準を定める。参加人数だけでなく、相談の解決状況、日本語学習後の生活上の変化、防災行動等を成果指標として蓄積し、翌年度の事業設計に反映する。

令和8年度外郭団体活動状況評価シート No.5

【評価対象期間：令和7年4月1日から令和8年3月31日まで】

団体名	公益財団法人吹田市国際交流協会	所管部室(課)名
		都市魅力部文化スポーツ推進室

2 市による評価

(1) 団体の運営に関する評価

◎→できている
△→一部できている

○→概ねできている
×→できていない

事項	評価項目	評価	評価の理由
団体の存在意義	市民福祉の向上に資する事業を行っている。	◎	協会の広い人脈や豊富な情報を活用しながら、市の委託事業や補助事業、自主事業を展開しており、吹田市多文化共生推進指針に基づく施策の推進に寄与しているため。
	事業の成果が市の施策の推進に貢献している。	◎	
事業実施主体としての妥当性	市が直営で行うよりも効果的かつ効率的にサービスを提供している。	◎	吹田市多文化共生ワンストップ相談センターの運営、日本語教室の実施など、効果的かつ効率的に、外国人等への支援に寄与するサービスを提供しているため。
	多くの市民の理解が得られる活動を行っている。	◎	

(2) 団体の自己評価に対する市の見解

令和7年度に行った職員就業規則の一部改定や公益通報制度規程の制定により、服務規律、情報管理、ハラスメント対応等を明確化し、組織の体制強化に取り組むことができています。また、毎月運営会議を開催することにより、事業運営上の課題を迅速に共有することができ、簡素で効率的な執行体制を構築することができています。引き続き、将来にわたって安定的に事業運営を行うことができる体制の確保に努めていただきたい。

財務管理について、令和2年度に中期アクションプランを策定しているが、事業規模及び社会情勢の変化を踏まえ、中期計画の見直し等について検討を進める中で、引き続き更なる経費抑制や財源確保の方策について検討されるとともに、財産の管理運用については最も確実かつ有利な方法で行うことについて留意されたい。また、会計・人事労務の電子化等により業務効率化を行うことができています。

ホームページでの事業計画・収支予算・事業報告・決算書類・役員名簿等の公開など、情報公開や個人情報の保護については、概ね適正な措置が講じられているが、次年度以降、会議録の公開についても検討いただきたい。在住外国人等の増加に伴い、貴団体の知名度向上や事業周知を強化する必要があるため、SNS等の更新頻度を上げるなど、さらなる情報発信の充実にも努めていただきたい。

事業について、吹田市多文化共生ワンストップ相談センターや行政通訳同行の件数が大幅に増加しているものの、適切かつ効率的に対応することができていることから高く評価している。

(3) 市の関与に関する今後の方向性

外国人等の増加や多国籍化等による支援ニーズの多様化に対応するため、令和5年度に策定した「吹田市多文化共生推進アクションプラン」に基づき、これまで協会が蓄積させたノウハウを活用し、市と協会で連携のうえ事業を実施していく必要がある。

また、外国人等を取り巻く情勢やニーズ等の変化を踏まえた事業内容を検討するなど、柔軟に対応していく必要がある。

今後も、市内在住外国人等の全ての人が安心して住むことができるまちづくり、多文化共生社会を推進する。